

# 令和5年度第1回糸島市総合戦略推進委員会

## — 議 事 録 —

■日時：令和5年7月14日（金）10時00分～

■場所：糸島市役所南側車庫2階 11・12号会議室

### （出席委員）

森田委員長、馬場副委員長、園田委員、中村委員、福島委員、大堂委員、内田委員、山上委員

### （事務局）糸島市

経営戦略部 中村部長

企画秘書課 吉村課長、下尾課長補佐、小金丸主査

### （関係課）糸島市

商工振興課 佐藤課長、中島課長補佐

ブランド政策課 土肥課長、長谷川課長補佐、田中係長

学研都市づくり課 大鶴課長、徳永係長

### 【議事概要】 ■ 委員 ○ 事務局 ◎ 関係課

#### 1 開会

#### 2 委嘱状の交付

#### 3 経営戦略部長あいさつ

#### 4 出欠確認

#### 5 委員長および副委員長の選任

（事務局から提案）

- ・ 森田委員を委員長に、馬場委員を副委員長に選任
  - ・ 進行を森田委員長へ
- 以下、森田委員長による議事進行

#### 6 協議事項

##### （1）総合戦略に係るチャレンジ事業や新規事業の意見交換

##### 「基本目標1 担い手の発掘・育成と新たな働き方の実現」について

（資料1-1に基づき、令和4年度第3回総合戦略推進委員会における委員からの意見等に対する対応及び改善策等について、事務局から説明。併せて、検討中の新規事業「人材確保サポート事業」について、商工振興課から説明。）

## ■委員

人材がなかなか定着しないという課題については、昔に比べ転職やテレワークなどの多様な働き方が一般的になってきており、社会全体で人材定着率が低下してきているという現状を踏まえた上で、比較・分析する必要があるのではないかと。

2つ目に、インターンシップ（就業体験）等に関連した話で、福岡県移住支援事業の一環で、ある企業が、移住定住の促進を一つの目的に、県内の自治体で様々な就業体験をしながら滞在をしてみるという企画を進めており、私のほうに「糸島で就業体験できる場所をいくつか紹介してほしい」という話をいただいた。この企業によれば、今までは農業などの第一次産業の就業体験が人気だったとのことだが、地場の企業で働くことも非常に貴重な体験になると思うので、可能性があれば繋いでいきたい。

3つ目に、糸島しごとさがしサイトの件について、利用者の多いハローワークや、Indeed（インディード）など利便性の高い民間サイトも既に沢山あるので、既存サイトの焼き直しをしても意味がないし、労力を割くのも勿体ない。そのため、糸島しごとさがしサイトに、市内企業が他の求人サイトに掲載している求人情報ページのリンクを張ったり、逆に、他のサイトにはない補足情報を糸島しごとさがしサイトに掲載して、そのリンクをハローワーク等のサイトに張ってもらったりするなど、世の中の求人サイトでは手が届いていない部分を、糸島しごとさがしサイトの中でできたらよいのではないかと。また、ハローワークや Indeed への登録代行など、これまでに手が届かなかった情報の部分を市が補うとよいのではないかと。

最後に、糸島しごとのブランド化プロモーションに関しては、糸島で働く人や、うまく人材を採用している地場の企業、定着率が高い企業などの成功事例も発信してはどうか。

## ■委員

糸島仕事さがしサイトのリニューアルに関しては、私も既存サイトと同じ情報を載せても意味がないと思う。また、待遇や給与面よりも、仕事の社会的意義や経営者の夢や志、志を共有できる仲間などを重要視する人たちも多いので、求職者の心を掴む情報発信の一つの切り口になるのではないかと。

## ■委員

毎月1回、商工会館で開催される「人材活性化プロジェクトの集い」には、成功事例を持った事業者も参加しており、これら成功事例を共有し広げていくための役割も果たしている。これと同じような場所が他にも複数あると思うので、これらを一箇所に集約し、商工会員のみならず、参加者を幅広く募ったほうが効果的だと思う。

また、「人材活性化プロジェクトの集い」で共有された、ある企業の成功事例によると、求人情報の発信において重要なのは、就職後イメージできるような情報を発信すること。Indeed やタウンワークで発信できる情報は限られており、ありきたりな事業内容や仕事内容しか書けないため、自社ホームページで、社員の声や、昇給の仕組みなどを発信するようになったところ、求職者からの応募が増えたそうだ。記事は長文だが、本当に働きたい人は読んでくれる。

## ■委員

人材確保は企業努力にかかっている。例えば、ある運送会社では、物流の2024年問題で運送業界の人

手不足が深刻な中、YouTube や自社ホームページなどで発信したり、社長自ら講演会を開催したりなどの企業努力で人材を集めている。

#### ■委員

糸島しごとさがしサイトを、糸島の仕事を探するときのポータルサイト的なものにしてはどうか。例えば、副業やインターンを含めた全ての仕事情報について、糸島しごとさがしサイトにページリンクを張ったり、企業が作成した求人チラシをPDFにして掲載したりするなど、糸島の仕事情報が集まっているサイトにするとう便的なのではないか。

#### ○事務局

皆さんからいただいたご意見は、来年度の事業の参考にさせていただく。

人材確保のためのキーワードは、会社に入った後がイメージできるような情報を発信することなのか。

#### ■委員

学生が求めている情報は何なのかを実際に聞いてみると、誰がやっているのか、どんな人がいるのかだと答える。そこで、糸島しごとさがしサイトを、例えば写真をもっと載せてみるなど、このような内容が分かるサイトにしてはどうか。

#### ■委員

以前、高校生の就職に特化した就活サイトの製作会社に説明を受けたことがあるが、応募が来て人材が定着するのは、やりがいを感じさせるような広告をしっかりと打つことができた企業であるとのこと。この製作会社では、このことに力を入れており、企業のキャッチコピー、仕事の紹介、職場の雰囲気などがしっかりと伝わるように企業に働きかけるとともに、伝わるような写真の提供もお願いしていた。

若い人ほど、やりがいや目的を強く求めているため、これらが伝わるサイト作りをしていく必要があるのではないか。

#### ■委員

補足させていただくと、学生が選ぶアルバイトには2軸あって、1つは稼げる（時給が高い）バイト、もう一つはやりがいがあるバイトである。そうすると糸島はやりがいがある、人が仲良しという部分で働きかけていく必要があると思う。そのため、求人情報にやりがいに関する内容がなければ、賃金で比較されてしまうのは当たり前。就職面談会に来たら、賃金以外にも、どんな職場なのかを質問するように、まるで就職面談会に来たと思わせるようなサイト作りをしたらよいのではないか。糸島では、稼げるバイトよりもやりがいがあるバイトでアピールしたほうがよい。

### 「基本目標2 産業間・産学金官連携などによる地域経済の活性化」について

（資料1-2に基づき、令和4年度第3回総合戦略推進委員会における委員からの意見等に対する対応及び改善策等について、事務局から説明。併せて、検討中の新規事業「大学応援・学生インターンシップ事業」について、学研都市推進課から説明。）

## ■委員

私が行っている取組にとっても近く、この事業に関わりたいと考えているのだが、「市内で事業を営む事業者」とは、具体的にどのような事業者か。

### ◎学研都市づくり課

現時点で未確定だが、本店、支店関わらず、市内に事務所を置く事業者になると思う。

## ■委員

私が取り組んでいる事業では、アルバイトなどを募集している企業と契約し、Twitter と SNS で繋がっている約 930 人の九大生に向けて求人情報を発信している。

実際、二社と契約し、うち一社はメンマの加工業務などで 63 名を募集することができた。もう一社は運動公園管理業務の人材を募集されており、もうすぐで契約が終了する。

私たちのテーマは、人材確保と課題解決である。単純業務をやってみないと課題は見つからないので、まずはアルバイトして人材確保の部分で入っていただき、その後の期間で課題解決に取り組んでもらうというプログラムも考えている。また、課題解決を学生だけで行うのは難しいので、アイデア出しや、どうやって課題を見つけるかということをサポートしてもらえるようなメンターを外部講師として雇おうと思っている。

委託事業者の選定方法や、学生へのアプローチ方法について教えていただきたい。

### ◎学研都市づくり課

委託事業者は、プロポーザル等で決めていくと思うので、これに応募していただくかたちになる。

学生へのアプローチについては、前回の委員会で、協定大学とそれ以外で差をつけても良いが、対象者は協定大学に関わらず、広く大学生を募った方が良いというご意見をいただいたので、今回反映させていただいた。そのため、協定大学には直接大学に働きかけて学生さんに周知していただこうと思っている。例えば九州大学であれば、キャンパスメイトの Web サイトに掲載していくなどが考えられる。

## ■委員

私の SNS 登録者は、ほぼ 1～2 年生で 930 人程いるが、受け入れ企業が足りない。しかし、企業側は、学生が足りないと仰っており、ミスマッチングが起きている。これを解決していきたいと思う。

## ■委員

イベントを通じて学生とつながることがあるが、インターンシップに参加したいと思っている学生はたくさんいるという実感はあるので、マッチングできる仕組みがあるとよい。

### ◎学研都市づくり課

山上委員の現在の取組は、学生のアルバイトであり、インターンシップではないということによろしいか。

■委員

現在は、まだインターンシップを行っていない。受け入れ企業が少ない状況もある。

■委員

インターンシップではなく、一つのプロジェクトを一緒に解決していくという形にすることで、間口が広がりマッチングが成立しやすくなるのではないか。単純作業は行わないなどの条件を設けず、様々な人が参加しやすい形にしてはどうか。

■委員

私が取えてインターンシップという言葉は使わない理由は、インターンシップとなると、3年生からの就職活動が目的というイメージや、堅苦しさが出てしまう。そのため、名目上はインターンシップでよいが、課題解決型プロジェクトとして学生を募集したほうがよいと思う。

■委員

インターンシップであれば、業種業態や期間によっては単位が取れる。大学の立場からすると、基本目標1（担い手の発掘・育成と新たな働き方の実現）、基本目標2（産業間・産学金官連携などによる地域経済の活性化）につながる就業体験という位置づけなので、そのような視点で見ていただくことも必要だと思う。

■委員

このテーマについて、参考資料を持ってきたので皆さんに共有させていただきたい。

（資料に基づき説明）1枚目が実践型のインターンシップ、就活対策のインターンシップが学生に浸透しつつある。九大生が、すぐには就職しなくても、いずれは第二の故郷として糸島に戻ってきてほしいと思っている。2枚目が地域コーディネータについて、3枚目が仙台が大学生とコラボして災害復興に取り組んでいる先行事例で、最後が中間支援などの類型がいくつか書かれてあるものである。

**「基本目標3 市内受発注の促進による市内消費の拡大」について**

（資料1-3に基づき、令和4年度第3回総合戦略推進委員会における委員からの意見等に対する対応及び改善策等について、事務局から説明。併せて、検討中の新規事業「糸島●●フェア」及び「おみやげグランプリ事業」について、ブランド推進課から説明。）

■委員

“なんでも糸島”の購買運動に取り組むに当たっての課題は何なのか。恐らく市民が市内の物を買っていないというところにあると思うが、このことについて市として課題分析はできているか。分析データなどはあるか。

お土産は、市民が買う場合もあれば観光客が買って帰る場合もある。もし市民が市内消費しないということが課題だとすると、果たして糸島お土産グランプリ事業がその解決策になるのか疑問に思う。

◎ブランド政策課

総合戦略に記載されている現状と課題の内容であって、その前段となる根拠データは当課で持ち合わせていない。

■委員

東京へのお土産に博多通りもんを買って帰るが、確かに糸島のお土産は思いつかない。一回やって終わりになるかもしれないが、この事業で把握できていないニーズが見えるかもしれない。

◎学研都市づくり課

若い職員に米はどこで買っているのかと聞くと、コスモスやドラモリで買っているそうだ。本市は、日持ちのしない生鮮品が強い傾向にあるので、日持ちする加工品を作ることで、素材のほうにも関心をむけてもらえたらいいなという思いもある。

■委員

ふわっとしたグランプリでは数年で終わってしまう可能性もある。しっかりした制度設計、着地点の設定が必要。

■委員

調味料グランプリはどうか。こだわりをどれだけ見せることができるか、見せ方が大事だと思う。

■委員

「賞味期限1分のスイーツ」という売り出し方が面白いと思った。糸島野菜は新鮮な状態で食べるのが美味しくて、新鮮な状態で食べることが可能。それを加工品にしてしまうと、糸島でなくても全国どこでもできてしまう。そのため、糸島でしかできない体験、糸島市に来て体験してもらうというブランディングにしても面白いのではないか。

■委員

収穫したばかりの人参は甘い。ここでしか食べれない、畑直（はたけちよく）というのも面白い。

■委員

グランプリより、糸島セレクト。その後、グランプリ。まずは、関心を持ってもらうことが大事。

■委員

糸島人は野菜は買っているかもしれない、そうすると何を買っていないのか。なぜ米はコスモスやドラモリで買うのか。見せ方を変えてくれたら買うのか。そういった根本原因を突き詰めて対策を講じることが大事。

## ■委員

スーパーマーケットに糸島産コーナーがあるが、金額があまり変わらなければ糸島産を買う。コスモスは安いのが売りで、そうすると産地は考慮されないのかもしれない。

また、2年目以降は、お土産グランプリの部門を増やしたら良いかもしれない。

### (2) 令和4年度地方創生推進交付金事業の効果検証

(資料2に基づき、令和4年度地方創生推進交付金事業の効果検証結果について、事務局から説明。)

## ■委員

令和5年度ではどれくらい実施が進んでいるのか。令和4年度で、評判が良かった事業はどれか。

### ◎商工振興課

現時点の令和5年度申請件数は2件。これから秋のイベントに向けて増えていくのではないかと考える。令和4年度で評判の良かった事業は、糸島ハンドメイドカーニバルに合わせた飲食マルシェである。

### (3) 第2期糸島市総合戦略の達成度の確認

(資料3に基づき、第2期糸島市総合戦略の達成状況について、事務局から説明。)

## ■委員

資料3の4ページ目「特徴的な事業」の学生起業支援制度の新設とあるが、具体的にどのような事業なのか。

### ◎商工振興課

九大への情報提供はこれまでできていなかったが、創業塾などのイベントがある場合には提供していく。また、糸島市では登記費用を半額補助しており、今後福岡市同様、全額補助を検討しているところである。

## 7 その他

※ 質疑等特になし

## 8 今後の予定

○事務局

今後のスケジュールに関する説明

## 9 閉会

(終了)